

切手で見える機械工学3

第3回 切手蒐集の趣味はありませんが

都立産業技術高専 名誉教授 吉田喜一

編集者から原稿執筆依頼がありましたが、切手を集める趣味がないので逡巡しておりました。ただし、お札と切手をつくっている国立印刷局(かつての大蔵省印刷局)の職員の方々に、入局何年目かの研修で『機械工学』という科目を非常勤で教えていたことがあったものですから、何か書けないかと思っていました。理工系の職員の方だけでなく、文系の職員の方にも『機械工学』を教えなければならないので相当苦労したことを思い出します。当時は市ヶ谷の自衛隊のすぐそばに研修所がありました。その1階がお札と切手の博物館でした。民主党政権時の『仕分け』で研修所とお札と切手の博物館は移転させられました。現在、博物館は王子工場の隣にあります。市ヶ谷の時と比べてスペースは半分位になったようでした。印刷局OBでボランティアの方が詳しくお札と切手のつくりかたを詳しく説明してくれます。

6月6日にお札と切手の博物館(国立印刷局附属博物館・王子駅そば)と切手の博物館(民間の博物館・目白駅そば)に行ってきました。伺って切手の種類の多さにたいへんびっくりしました。芸術、各種スポーツ、建築物、草花、各種動物、昆虫、仏像、寺社、人物、アニメ、風景などありとあらゆるものが、切手の画材になっていることにたいへん感心しました。外国の切手を含めて機械工学に関わりそうな切手を探してみました。大体自動車、機関車等の鉄道、飛行機、船など宇宙関係を含めて乗り物がほとんどでした。

しかし、丹念に切手を見ていくうちに下記の機織図(1977年)を発見しました。たいへん芸術的であると同時にメカニズムもきちんとした絵になっています。どのような経緯でこの切手ができたのかわかりませんが、日本機械学会の記念日にふさわしい切手ではないかと思えます。この切手は実物を安価(180円)で手に入れることができました。ご希望の方にこの切手を貼って、はがきか手紙をさしあげます。さらに探して行って、下記『つる女房』を拝見することができました。鶴が機を織っているところを含めて大変印象的な切手でした。1997年に日本機械学会100周年の行事・イベントがありました。その時100周年を記念して、創立者の真野文二の切手を出すことができないか動いたことがあったようですが、実現には至らなかったようです。適当な機会に機械学会あるいは機械に関する記念切手をお願いしたいものだと思います。



機 織 図



1974.2.20.
第2集 つる女房
2nd Issue, Tsuru Nyobo
各40,000,000

C632 娘



日本機械学会技術と社会部門ニュースレター: <http://www.jsme.or.jp/tsd/news/index.html>

日本機械学会

技術と社会部門ニュースレターNo.29

(C)著作権:2013 一般社団法人日本機械学会 技術と社会部門